

二〇二四年度 入学試験問題

法学部A方式I日程・文学部A方式II日程・経営学部A方式II日程

二限 国 語 (60分)

〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。
- 四 問題冊子のページを切り離さないこと。

マークシート解答方法についての注意

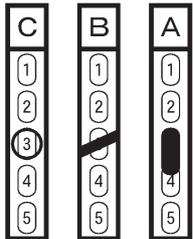
マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直読読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

- 二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
- 三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
- 四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

〔一〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

キャンセル・カルチャーは、近年アメリカで特にシントウ^Aし、ヨーロッパでも広まっている社会的な歴史観（もしくは歴史感覚・歴史的社會通念）の一種である。フランスの歴史学者ピエール・ヴェスペリニが、その最新作『過去をどうするのか？』（二〇二二年）で取り上げ、話題となった。この著にそって、その内容をとらえると、これは、負の要素があるとみなされた過去を、（たとえそこにポジティブで良い面もあったとしても）キャンセルしたい——ケンシヨウ^Bしたり記念したりするのをただ止めるだけでなく、取り消したい——とする動きである。取り消したい過去としては、トーマス・ジェファソンやチャーチルの偉業から、メリメの文学作品、果ては古代ギリシャの詩まで例に挙げられる。（下略）

これは要するに、現代の正義に基づいて過去の出来事の善悪と可否を判断し、不適切な過去を炙^aり出して、その記憶を想起するようなことすら拒絶しようとする動きで、これまでの歴史学（そして文学など人文科学全体）への挑戦と言っても過言ではないかもしれない。確かに、ジェファソンの奴隷への個人的なスタンス、チャーチルの人種差別的な側面、メリメ作品のアンチフェミニストな内容は、現代の価値基準から照らして適切ではないところはもちろん存在する。伝統的なクラシック・バレエのような芸術のあり方は、現代的「ボディ・ポジティブ」の否定でもある。古代ローマの詩人オウィディウスによる『変身物語』は、神話の神々による若い女性への生々しい性的暴行シーンも描いているが、もし教室に実際の被害者がいた場合に、その学生は授業に普通には参加できなくなってしまうのではないのか？ この例に限らず、歴史学・文学・芸術の一部の伝統的なテーマは、マイノリティーなど一部の弱者の積極的な共感を拒むような内容が多く見出されるのである。

西欧の文脈においてキャンセル・カルチャーの対象となっているのは、その習得によって「教養がある」と言わしめるような知識の遺産であり、歴史・文学・芸術の知識の総体である。これらは、伝統的なキリスト教文化と強い結びつきを持ち、その蓄積が文化遺産と言えるものを形成している。それらはかつて、大学で学べる人文教育の主体となっていたような教養であり、物質的な余裕とは比較にされないような豊かさの象徴として、敬意と憧憬とともに捉えられていたはずである。

例えば、キャンセル・カルチャーの発祥したアメリカで、歴史文化のレガシーの一部となっている『大草原の小さな家』を思い起こしてほしい。開拓農民の家族の長女で、この物語の主人公かつ語り手であるローラの姉・メアリーは、猩紅熱しょうこうねつで失明後に大学で勉強する。失明後のメアリーは、小学校にも満足に通えなくなり、家庭内でできる仕事をしていたのだが、盲学校というものの存在を知った家族は、農業を生業としていて決して豊かではないのに、必死でメアリーをその大学へ送ろうとした。そのために、主人公ローラは、齢一五にして地元の小学校の先生となつて、必死に働き始めたのである。もちろんローラの方は、大学を卒業してはいない。どうやら当時の西部では、大学に行かずに学校の先生という尊敬に値する職業につくことができ、しかも姉に高等教育を受けさせる助けになるような稼ぎも得られたようである。その後のローラが、世界中でベストセラーとなった大草原シリーズを執筆したことはよく知られている。一方姉は、せつかく教育を受けたものの、やはり時代柄、家の外で働くのは難しく、両親のもととどまり内職で家計を助けながら人生を終えたという。

つまり、当時でも大学で受けた教養というのは、必ずしも現実社会における(糊口をしのぐ手段と直結した経済的な)「成功」とは直接的関係がなかった。しかし、ローラの物語を通して、メアリーが受けることのできた教育を、この家族がこの上なく誇りに思っていたことは、ひしひしと伝わってくる。姉を大学に送り届けた両親が、ローラのために大学街から持ち帰ったテニスの詩集を、ローラは金ののべ棒のように扱う。詩だけでなく、実利を無視してたつぷりの余白を残しながら贅沢ぜいたくに紙に印刷された本というモノ、詩を読み味わう時間の余裕自体が、豊かさそのものである。この物語において、テニスの詩集は大学での教育の象徴である。

ところが、現代のキャンセル・カルチャーからすれば、おそらくテニスもケツパクではいられないだろう。テニスの属すヴィクトリア文学のような伝統的な教養の一部は、現代的な観点からは抑圧的なイデオロギー言説b(人種差別、反ユダヤ主義、性差別、同性愛嫌悪など)を含むことがある。その教養を形成してきた学問は、時には権力に与くみすることで隆盛し、その体制を補強するために機能してきた。

「偉人」の記憶をどうするのか。その作品が残してくれたものをどうするか。帝国主義やコロニアリズム*に手を貸した学問を

どうするのか。「過去をどうするのか？」という問題は、もともと古代ギリシャを専門とする歴史学者のヴェスペリニによれば、「ヨーロッパの(つまり西洋の)遺産文化をどうするのか？」という問題と結びついている。というのも、ヴェスペリニがその著書を出版した時点において、アメリカでは各地でジェファアソンの銅像などの歴史的モニュメントが、「不適切である」とされ引きずり下ろされ続けていた。ヴェスペリニによれば、そのような安易な破壊(キャンセル)は安直に良心を和らげることにはかならない。例えばジェファアソンは、当時の社会的慣習に基づけば、当たり前であったから奴隷に頼る生活を行っていたわけで、よほどの天才でない限りは、人間は自分を取り巻く社会の常識に全くとらわれずに物を考え、行動することは難しい。現代の私たちも、生活を送る上で頼らざるをえない安価な食品・衣服・雑貨は、ひよつとすると奴隷のような状態で働かされている人々の酷使を通じて提供されているかもしれない。現在の生活様式は、将来的に人類の未来を危険に陥れる環境被害を引き起こすのは分かりきっているのに、生活を抜本的に変えることはできないでいる。現代の私たちは、未来の人から見ればジェファアソンと五十歩百歩なのかもしれない。

ヴェスペリニは、一貫した真理や善を歴史に求めるようなナイーブな姿勢を、ピューリタンのと言っているが、キャンセル・カルチャーのキャンセルしたい対象が、最終的に歴史・文学・芸術など文化遺産を形づくるものならば、最近欧州各地で起きた環境運動家による有名絵画ヘインクなどを投げつけるような抗議も、キャンセル・カルチャーが過激に先鋭化した先にあると言える。要するにヴェスペリニによる分析は、その後西欧社会の各地で起きた文化財へのテロルも予見するような鋭いものであった。

実際、大学の教育現場でも、歴史の現代的な意義が問われるようになってきている。アメリカ歴史協会(American Historical Association)のニュースマガジンが昨年(二〇二一年)出した統計によると、リーマンショック以降、アメリカの高等教育機関では、歴史を専攻する学生が凄まじい勢いで減り続けている。これは単に、『大草原の小さな家』の時代に存在した文化的豊かさが、かつてのような敬意と憧憬の対象ではなくなっていることを示しているだけではない。すでに、同協会の二〇一三年のニュースマガジンで、「歴史を勉強して社会に出ることの意味」について説いたボストン大学歴史学部の卒業式での

式辞が紹介されていた。つまり公的な場で、歴史学者が「歴史の意味」をわざわざ説明する要請が当時からあり、その甲斐も虚しく歴史学部は高等教育で最も人気がない分野の一つになっている。その式辞自体にも、キャンセル・カルチャーの席卷を予見するような不協和音がすでに見える。

それによれば、歴史は平衡感覚といえるもの、つまり「自分を超えて別の世界を思い描くこと」、「他人の立場に立つて考えること」、「安易な答えを疑ってかかること」、「偶然性の役割を理解すること」を教えてくれる。つまり、歴史は世界観の多様性を示してくれるだけでなく、自分のよって立つ世界を相対化させて、絶対のものなどないと示してくれている。しかし、同時にこの式辞は、「私たちが当たり前だと思っていることが、実は時間を超越したものであることを知ることができる」と言っている。要するに、歴史の多様性を認めると同時に、時空を超えて一貫したある種の真理や正義を歴史に求めようとする矛盾がある。ここに表現された **X** に、近年のいわゆる「キャンセル・カルチャー」の圧力に窮する歴史の現状が見え隠れする。この式辞は、歴史に「私たちが当たり前だと思っている」ような正義が貫いていることを認めなければ、その社会的意義を認められないような状況にあることをシサする^D。キャンセル・カルチャーの隆盛と、歴史が社会的に意義や人気を失っている状況は、少なくとも欧米社会においてはパラレルな現象になっている。

ヴェスペリニは、「これまでに誰も問わなかったような形で、現在の社会秩序や根本的な問題を突きつけている」とキャンセル・カルチャーの視点を一定程度評価している。しかし、西欧において歴史を学んだ非西欧人の私からすれば、この視点は、ポストコロニアルな視点、ヨーロッパを地方化したりしようとするような一種の正義に基づく視点の延長線上にあるのではないかということが言える。言い換えれば、いわゆる有色人種でもなければ、サバルタンでもなく、強者の側にいるとみなされる人々の罪悪感の行く末である。サバルタン研究の旗手でもあったインド人知識人のガヤトリ・スピヴァックは、かつてアメリカの大学で講義している際に体験した経験を書き留めた。それによると、彼女が行っていた講義を聴講していた学生の一人が、抗議めいたことを言った。女性でもなく、マイノリティーでもなく、障害もない白人男性の学生にとって、スピヴァックが講義したサバルタン研究は、接点を持たず、どうアプローチして良いのかも分からないものである、と。

サバルタン・スタディーズは、ポストコロニアル的な学問潮流と一体化し、世界の知的なヘゲモニー^{*}を握ってきた近代以降の西欧的学知への批判も伴うようになった。そして、その声を回収しようとしている主体としての研究者自身も、声の回収自体が不可能に近い企図なのだという深い反省を持つことが求められた。このような脱西欧中心主義的な視点の先鋭化は、逆に西欧に出自を持つ知識人が、一部の非西欧地域の文化的事象を研究することへの障壁を作ってきたのだろうか。ポストコロニアリズム以後、西欧で学問的訓練を受けた西欧人は、いかにして、自らの依拠する文化的土台を踏みしめながら、自分のアイデンティティとは直接縁のない「周縁にある人々」を研究対象にできるようになるのかを模索させられることになった。この種の葛藤を担わされるようになった良心ある研究者にとつて、自らのよつて立つ文化を解体しなければならぬという責任感を、素直であればあるほど感じるようになる。その行き着く先は、おそらくキャンセル・カルチャーであり、それが過激になっていくと、過去の偉人の銅像への落書き、そして銅像を引きずり下ろし、文化遺産ヘインク瓶を投げるような行為へと繋がっていくのである。

(小俣ラポー日登美「キャンセル・カルチャーの標的となる歴史概念」より。文章を一部省略した)

【注】 *ボデイ・ポジティブ 社会や他人が決めた「理想的な体型・外見」に左右されず、自分の身体を肯定的にとらえる

という考え方。

*コロニアリズム 植民地主義。

*リーマンショック 二〇〇八年に起きた、アメリカの投資銀行リーマン・ブラザーズの倒産を契機とした世界的な金融・経済危機。

*サバルタン 支配的な権力集団から社会的、政治的、地理的に排除された人々。従属的社会集団とも。

*ヘゲモニー 主導権。

問一 波線部A「シン」B「ショウ」C「ケツ」D「サ」について、同じ漢字を用いる熟語を含むものをア～オの中からそれぞれ一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

A シントウ ア シンリヤク者を撃退する。

イ 国内記録をコウシンする。

ウ 卒業後のシンロに悩む。

エ 成績フシンを克服した。

オ 海が大地をシンシヨクする。

B ケンシヨウ

ア 好成績を収め、ヒヨウシヨウされた。

イ シヨウコ不十分で無罪となる。

ウ シヨウガク金を得て留学する。

エ 大被害は地球温暖化へのケイシヨウである。

オ 宝くじのシヨウキンで家を建てた。

C ケツパク

ア 苦心してケツサクを生み出す。

イ 訴訟事件にハンケツを下す。

ウ 兄のケツコン式に参列する。

エ 姉の協力がフカケツだ。

オ 私欲のないコウケツな人物だ。

D シサ

ア コンクルールのシンサ員をつとめる。

イ 東京と北京では、一時間のジサがある。

ウ ササイなミスで大敗する。

エ 人をキョウサして、盗みをさせることは犯罪だ。

オ 不始末をしてサセンされた。

問二 点線部 a「過去を炙り出して」b「権力に与すること」の意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

a 過去を炙り出して

ア 昔の埋もれた事実を明らかにして

イ 過ぎ去った出来事を蒸し返して

ウ かつての事件を探り出して

エ 以前の実態を公表して

オ 過去の出来事を再現して

b 権力に与すること

ア 権力に権威を与えること

イ 権力に呼応すること

ウ 権力に加担すること

エ 権力を保障すること

オ 権力をかさに着ること

問三 本文の中で『大草原の小さな家』は、西欧の文化遺産が敬意と憧憬の対象となっていたことの具体例として示されているが、この作品のどのような点がそれに当たるか。つぎの中から該当しないものを二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア ローラが一五歳で地元の小学校の先生になって必死に働き、失明した姉を大学に進学させた点。

イ メアリーは大学を出ても家の外で働くことはできなかったが、その受けた教育を家族は誇りに思っていた点。

ウ ローラが執筆し、世界中でベストセラーとなった大草原シリーズが、歴史文化の遺産となった点。

エ 実利を無視して贅沢に紙に印刷されたテニスの詩集を、ローラの一家が大切にしていた点。

オ 姉に大学教育を受けさせたローラ自身も、学校の先生という尊敬に値する職業についていた点。

カ 経済的に豊かでないローラの一家ではあったが、詩を読み味わう時間的余裕に豊かさを感じていた点。

問四 傍線部①「五十歩百歩なのかもしれない」とあるが、どういうことか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 古代ギリシャを専門とする学者にはヨーロッパの文化遺産が不適切に見えるように、未来の人が現代人の生活を見たとしたら同じように不適切に映るであろうということ。

イ ジェファーンソンは奴隷制を認めていたためその人を記念する銅像が壊される理由があるのと同じように、環境被害を引き起こしている現代人も非難されてしかるべきだということ。

ウ 西欧中心主義から脱しているだろう未来の人から見れば、ジェファーンソンも現代人も同じような西欧中心の文化伝統の中にいるということ。

エ 自分を取り巻く社会の常識や慣習を守ることに執着している点で、現代人もジェファーンソンと本質的には同じだということ。

オ 便利な生活の背後にあるかもしれない犠牲に思いを致すことがないという点で、ジェファーンソンも現代人も似たようなものだということ。

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

二〇〇六年一二月、国連総会において障害者権利条約が採択され、二〇〇八年五月に発効した。日本では、この条約の締結にあたって必要な国内法を整備するため、二〇〇九年一二月に「障がい者制度改革推進本部」が設置された。

実は「障がい」と A したこの会議においても「漢字表記がよいのか。それとも、ひらがな表記がよいのか」という問題をめぐって、さまざまな関係者へのヒアリング結果をもとに検討が行われた。その詳細は「『障害』の表記に関する検討結果について」(二〇一〇年)という報告書でも確認することができる。

この報告書によると、ひらがな表記(障がい)が支持されているのはとくに行政や企業においてであることがわかる。そして、その理由としてあげられているのが、「害」という字は人びとに否定的な印象を与えるものであり、結果的に障害者に対する「悪い」イメージにつながってきた、という理解である。

「害」の字の印象の悪さ、負のイメージにより、不快感を覚えるものがあるのであれば、改める部分から改めるべきと考え、平成二〇年四月から行政文書等における「障害」の表記を「障がい」に変更(岩手県)。

「害」の字が、他人に害を与えるなど負のイメージがあつたため、平成一九年三月から国内グループ企業における表記を「障がい」に変更(ソニー株式会社)。

好意的に受け止めれば、ひらがな表記を支持する人びとは、「害」の文字を使わないことで障害者に対する「負のイメージ」を避けることができると考えているようだ。だがそもそも「害」という文字に対して「不快感」を抱いているのは誰なのだろうか。報告書ではこの点について明確なことが書かれていない。

X、「害」の文字が使われることで、大多数の障害者が不快感を抱いたり、傷つけられるような思いを抱いたりしている可能性はある。その場合、憎悪表現(ヘイトスピーチ)がそうであるように、漢字表記を使用しないことのほうが「正しい」と判断されることがあるだろう。

Y、同じ報告書のなかで、一部の障害者団体からはまったく逆の意見が出されている

る。

人に対して「害」の字を使用することは不適切であるとして、「障害」の表記を「障がい」に変更する考え方は、障害者の社会参加の制限や制約の原因が、個人の属性としての機能障害にあるとする個人モデル(医学モデル)に基づくものであり(中略)採用すべきではない(DPI日本会議)。

漢字を、ひらがなに置き換えてしまうと、「社会がカベを作っている」「カベに立ち向かう」という意味が出ない(東京青い芝の会)。

つまり、少なくともこれらの障害者団体は漢字表記を用いないことのほうが問題だと捉えている。そしてその理由は、ひらがな表記を好ましいとする考え方が、基本的に障害の「個人モデル」にもとづいているからであることがわかる。

障害の「個人モデル」とは、障害者が経験する社会生活上の不利や困難(ディスアビリティ)は、その人の身体的、精神的、知的特徴(インペアメント)によって生じているとする考え方である。この考え方は、インペアメントの原因を追究し、その治療や回復を図ろうとする領域(たとえば、医学的・心理学的な研究)において採用されてきたものである。加えて、これら領域における知見は障害をめぐる問題全体を覆い尽くすような圧倒的な力をもって、障害者の生を大きく左右してきた歴史をもつ。こうした経験から、障害の「個人モデル」は「医療モデル」とも呼ばれる。

さて、こうした「個人モデル(医療モデル)」のもとでは、障害者が何か「できない」のはインペアメントのせいであり、この意味でインペアメントは個人にとって、また時には社会にとっても「良くないもの」「避けるべきもの」「すなわち「害」である」と意味づけられてきた。これに対し近年、インペアメントを「害」として把握すること自体が、障害者に対するステイグマ(負の烙印)をもたらしてきたのではないかという指摘がなされている。この指摘に対する応答のひとつとして登場したのが、「障がい」というひらがな表記である。したがって、ひらがな表記を「正しい」と考える人たちも、実は障害の「個人モデル」の視点自体は共有している、ということになる。¹

これに対し、さきあげた二つの障害者団体は、「個人モデル」の視点そのものに対して異議を申し立てている。彼ら／彼女

らの立場からすれば、障害者が「社会参加の制限や制約」を経験しなければならぬのは「社会がカベを作っている」からにほかならない。つまり、ディスプレイリテイの原因はインペアメントではなく、社会のつくられ方の側にあるのだ。このように、問題の原因を障害者「個人」の側ではなく「社会」の側に見出そうとする考え方のことを、障害の「社会モデル」と呼ぶ。

こうした「社会モデル」の考え方のもとでは、「障害」は特定の心身状態にある人たちの社会参加を阻む「障壁(バリア)」という意味に読み換えられる。「障害」をもっている人がいるのではない。特定の人たちに対して不当に「障害」「障壁」を押しつけている社会が存在しているのである。このように考えれば、社会が障害者に押しつけている「障害」「障壁」を取り除き、障害者の社会参加を保障することこそが重要な問題となる。それにもかかわらず、「害」の文字をひらがなに置き換えてしまうと、それは社会の側に **B** 深く存在している不当性をごまかすことになってしまう。一部の障害者団体が「障害」表記を用いないことのほうが問題だと主張するのは、こうした理由からである。

(中略)

「街中で必要なサポートが得られず困ったことがある」という障害者は多い。そうした状況が放置されるべきではなく、困っている障害者がいれば周りの人たちがサポートすべきであるという主張に対しては、その「正しさ」に異議を唱える人は少ないだろう。実際、「声かけ・サポート運動」は多くの障害当事者からも支持されている。しかし、上記した「声かけ・サポート運動」推進宣言から読み取ることができるのは、周りの人たちが「他者を思いやる共助の心」をもてば、障害者が「安心・安全・快適に暮らし過ごせる」社会になるというあまりにも安易なメッセージである。このような、「思いやり」や「共助の心」「善意」によって障害者が日常生活・社会生活のなかで経験する不利や困難を解消しようという考え方を、以下では「思いやり」型PCと呼び、その問題点を指摘したい。

障害の「社会モデル」の視点から見たとき、「思いやり」型PCには、いくつかの問題点がある。第一の問題は、「思いやり」型PCのもとでは、障害者は「サポートが必要な人」としてしかみなされない点にある。ここでは、インペアメントをもっていることと「困っている」ことが連続したものととして理解される。その結果、障害者は街を歩いているだけで、あるいは電車やバ

スに乗っているだけで、すぐさま「サポートが必要な人」として認識され、そのような存在として扱われることになる。もちろん多くの場合、サポートしようとしている側は「善意」をもった人たちである。しかし「善意」の人たちこそが、歴史的に障害者を「自立できない弱い者」として劣位に置き続け、彼ら／彼女らを「Z」し続けてきた張本人でもある。このことをふまえると、私たちは「思いやり」型PCに対してもっと慎重になるべきである。

第二の問題は、「思いやり」型PCが障害者に対するサポートの提供を、文字通り他者の「思いやり」に委ねてしまうという点にある。その結果、障害者は相手の事情や都合によってサポートが得られたり得られなかったりという不安定な状況に置かれることになる。こうした「相手次第」の状況のもとでは、障害者が自身のニーズ（必要性）を十全に表明することは難しい。また、たとえ的外れなサポートや「余計なお世話」がなされたとしても、障害者の側に断りにくい思い、異議申し立てをしにくい思いを抱かせてしまう。結果、障害者のニーズは常に脇に置かれ、社会が障害者に押しつけている障壁が十分に取り除かれることはない。このことは、多くの人が他者への「思いやり」をもてなくなる災害等の緊急時において、より深刻な事態を招くことになる。

したがって、「思いやり」型PCだけで他の者と平等な社会参加機会を障害者に保障することは難しい。それ以上に、障害者―非障害者の非対称な権力関係を前提とした「思いやり」型PCは、障害者の「Z」を再生産しかねない。この点を障害者の尊厳に関わる重大な問題として捉えるからこそ、障害の「社会モデル」は、「困っている障害者」ではなく障害者を「困らせている」社会に目を向け、その構造やしくみの不当性を可視化し、変更を迫るのである。

（飯野由里子「思いやり」から権利保障へ——ディスプレイリティをめぐる「正しい」見方」より。文章を一部省略した）

【注】 *声かけ・サポート運動

鉄道事業者が「困っている人」に対する積極的なサポートを呼びかけた運動。それを承けて東京商工会議所が「声かけ・サポート運動」推進宣言を発表したが、この前の箇所で論じられている。

*PC
ポリテイカル・コレクトネス。特定の人びとを差別や偏見の対象としないための、社会的公正さに照らして「正しい」態度や制度などのこと。

問一 空欄 ・ に入る漢字として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- A ア 題 イ 銘 ウ 呼 エ 冠 オ 適
- B ア 懐 イ 根 ウ 底 エ 腹 オ 下

問二 空欄 ・ に入る接続表現の組み合わせとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号を

マークせよ。

- ア X あるいは・Y そのうえ イ X とはいえ・Y ただし ウ X そもそも・Y しかし
- エ X たしかに・Y しかも オ X もちろん・Y ところが

問三 傍線部Ⅰ「ひらがな表記を「正しい」と考える人たちも、実は障害の「個人モデル」の視点自体は共有している」といえるのはなぜか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 障害者個々人のインペアメントに対するステイグマを解消したいと考えているから。

イ 障害者のインペアメントを「良くないもの」とみなすことを容認するのは同じだから。

ウ インペアメントの「害」を取り除きたいという個人の要望に応えようとしているから。

エ 「害」を「がい」と書くことによって個人のインペアメントを補えると考えているから。

オ 障害者のインペアメントを本人の「害Ⅱがい」と捉えていることには変わりないから。

問四 障害の「個人モデル」「社会モデル」の性格についての説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 「個人モデル」はインペアメントを克服しようとする発想からきた考え方であるのに対し、「社会モデル」は障害者をありのまま包摂しようとする考え方である。

イ 「個人モデル」は障害に対する旧来の社会において支配的な考え方であるのに対し、「社会モデル」は最近になって行政や企業によって提唱された考え方である。

ウ 「個人モデル」は障害問題の解決を障害者本人にゆだねようとする考え方であるのに対し、「社会モデル」は障害者を社会全体で支援しようとする考え方である。

エ 「個人モデル」は個人が社会に障害を押しつけているとする考え方であるのに対し、「社会モデル」は社会が個人に障害を押しつけているとみなす考え方である。

オ 「個人モデル」は障害の治療などのために新たに案出された考え方であるのに対し、「社会モデル」は障害を社会問題として扱おうとする伝統的な考え方である。

問五 傍線部2「思いやり」型PCには、いくつかの問題点がある」とあるが、この問題点にあてはまるものをつぎの中から二つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 障害者の周囲にいる人びとに対して「思いやり」や「善意」をもつことを強制してしまうこと。
- イ 非障害者の「善意」が障害者のニーズに合致しない場合に無駄になってしまうということ。
- ウ 非障害者の「善意」が、結果として障害者をつねに弱者とみなす状況を作ってしまうこと。
- エ 「善意」ある人たちが、障害者に対する「思いやり」のためにかえって非難されかねないこと。
- オ 障害者にとつての障壁が、周囲の非障害者の都合によっては放置されかねないということ。
- カ サポートが他人の「善意」次第になるため、障害者が心理的に不安定になりかねないこと。

問六 空欄 Z に共通して入る語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 無力化
- イ 匿名化
- ウ 差異化
- エ 対象化
- オ 卑俗化

問七 筆者は障害の「社会モデル」によって、なにが可能になると考えているか。その説明を二十五字以上、三十五字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

(下書き用)

【三】 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

「道心^{だうしん}あらば、住む所^aにしもよらじ。家にあり、人に交はるとも、後世^{ごせ}を願はん^①に難かるべきかは」と言ふは、さらに後世知らぬ人なり。げにはこの世をはかなみ、必ず生死^{しやうじ}を出でんと思はん¹に、なにの興^{きよう}ありてか、朝夕君^{あさゆふ}に仕へ、家を顧みる営みのいさましからん。心は縁にひかれてうつるものなれば、閑かならでは道は行^{ぎやう}じがたし。

そのうつはもの、昔の人に及ばず、山林に入りても飢^うゑを助け、嵐を防^{ふせ}くよすがなくてはあらぬわざなれば、おのづから世を貪^{むさぼ}るに似たる事も、たよりにふればなどかなからん。さればとて、「背けるかひなし。さばかりならば、なじかは捨^dてし」など言はんは、無下の事^④なり。さすがに一度道^{ひとたび}に入りて世を厭^{いと}はん人、たとひ望みありとも、勢⁴ひある人の貪^{とんよく}欲多きに似るべからず。紙の衾^{かみ}、麻の衣^{あさ}、一鉢^{ひとばち}のまうけ、藜^{あかぎ}のあつもの、いくばくか人の費^{つひ}えをなさん。求むる所はやすく、その心はやく足りぬべし。かたちに恥づる所もあれば、さはいへど、悪にはうとく、善にはちかづくことのみぞ多き。人と生れたらんしるしには、いかにもして世を遁^{のが}れんことこそ、あらまほしけれ。ひとへに貪^{むさぼ}る事をつとめて、菩提^{ぼだい}におもむかざらんは、よろづの畜類^eにかはる所あるまじくや。

(『徒然草』より)

【注】

- * 道心 仏道を求める心。
- * 生死を出でん 「迷いの世界を脱しよう」の意。
- * たよりにふれば 「場合によつては」の意。
- * 紙の衾、麻の衣 粗末な夜具や着物。
- * 一鉢のまうけ わずかな食べ物。
- * 藜のあつもの 粗末な汁物。「藜」は雑草の一種。

問一 二重傍線部 a「し」b「る」c「ら」d「し」e「く」の文法的説明として正しいものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。ただし、同じ記号をくり返し選んでもよい。

ア 助詞 イ 助動詞 ウ 動詞の一部 エ 形容詞の一部 オ 助動詞の一部

問二 点線部①「難かるべきかは」②「うつはもの」③「あらぬわざ」④「無下の事」⑤「あらまほしけれ」の本文中の意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

① 難かるべきかは

ア 困難はあるはずだ イ 差し支えはない ウ 非難すべきだ

エ 固執する必要はない オ 邪魔されるはずだ

② うつはもの

ア 器用 イ 器量 ウ 器物 エ 器材 オ 器官

③ あられぬわざ

ア 生活できないこと イ 出家できないこと ウ やらなくなってしまったこと

エ やる必要がないこと オ 役に立たないこと

④ 無下の事

ア もつともなこと イ 受け入れるべきこと ウ 屈辱的なこと エ ひどいこと オ 反論できないこと

⑤ あらまほしけれ

ア 正論である イ 不可避である ウ 非現実的である エ 万全である オ 理想的である

問三 傍線部1「なにに興ありてか、朝夕君に仕へ、家を顧みる営みのいさましからん」とあるが、どういふことか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 日常生活を送ることこそ真の修行になるといふこと。

イ 仕事と家庭を両立させることは難しいといふこと。

ウ 世俗の生活に固執することには意味がないといふこと。

エ 出家者にも人間らしい生活は不可欠であるといふこと。

オ 家で修行することが主君に仕えることより重要だといふこと。

問四 傍線部2「おのづから世を貪るに似たる事」とあるが、どういふことか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア たまたま収入につながっているだけの、修行者にとって日常的なこと。

イ 一見、欲にとらわれているようだが、ただ命をつなぐためにおこなっていること。

ウ 金もうけをしている点では欲深い人とかわらないが、修行にも役立っていること。

エ 強欲な者と同一視されるため、修行者に許容されるとは思えないこと。

オ 少しでも世間の人と同じ感覚を持つとうとして、わざと世俗的な振舞いをする。

問五 傍線部3「背けるかひなし」と述べる人は、なぜそのように評しているのか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 出家遁世したのに、閑寂とした所で修行していないように見えるから。
- イ 出家遁世したのに、昔の人の教訓に反する修行をしているように見えるから。
- ウ 出家遁世したのに、貪欲な人との交わりを続けているように見えるから。
- エ 出家遁世したのに、世俗の生活を続けつつ修行しているように見えるから。
- オ 出家遁世したのに、貪欲と無欲の区別がつかないように見えるから。

問六 傍線部4「求むる所」とは何と考えられるか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 修行者にも必要な生活の糧を得ること。
- イ 修行者にとって雑念につながる事。
- ウ 修行者に余計な出費を強いること。
- エ 修行と世俗生活を両立させること。
- オ 修行のための道具を入手すること。

問七 筆者は、どのように修行をするべきだと考えているか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 閑寂とした環境作りを最優先し、衣食を得ようという気持ちは減却させる。
- イ 世俗の人々と同じ生活と、山林に籠もる修行生活を自在に切り替える。
- ウ 多くの貪欲な者とかかわって生活しつつ、鍛えあげた精神力で自らの欲望を抑える。
- エ 衣・住は捨て、動物と同じように過不足ない食料で命をつなぐ生活を目指す。
- オ 人間として最低限の営みを保ちながらも、世俗の生活とはきっぱりと距離を置く。